

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	浜松学院大学
設置者名	学校法人興誠学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
現代コミュニケーション学部	子どもコミュニケーション学科	夜・通信	11		133	144	13	
	地域共創学科	夜・通信			70	81	13	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

本学ホームページ https://hgujsys2.hgu.ac.jp/public/web/Syllabus/WebSyllabusKensaku/UI/WSL_SyllabusKensaku.aspx webシラバス検索より、検索条件のキーワードに「有」と入力して検索
--

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	浜松学院大学
設置者名	学校法人興誠学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<https://hamagaku.ac.jp/kosei/disclosure/>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	現 信用金庫職員	2022. 7. 1- 2024. 6. 30	財務・経営計画
非常勤	現 税理士事務所顧問	2022. 7. 1- 2024. 6. 30	財務・経営計画
(備考) 5名の外部理事のうち特に役割を期待して招いている2名につき記載			

様式第2号の2-②【(2)-②外部の意見を反映することができる
 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	浜松学院大学
設置者名	学校法人興誠学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>1月に各授業担当教員にシラバス作成を依頼し、2月末までを作成期限としている。シラバス作成の手段はweb入力とし、各担当教員が作成期限まで24時間編集できる状態である。シラバス作成時の注意点に関しては、依頼時に必須項目、成績評価方法、必要な準備学習の具体的内容及びそれに必要な時間等の説明を行っている。3月に入力完了されたシラバスを教務担当職員がチェックを行い、修正期間を経て4月に当該年度のシラバスを公表する。</p>	
<p>授業計画書の公表方法</p>	<p>本学ホームページ内シラバス検索システム https://hgujsys2.hgu.ac.jp/public/web/Syllabus/WebSyllabusKensaku/UI/WSL_SyllabusKensaku.aspx</p>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>シラバス記載の成績評価方法、成績評価基準及び浜松学院大学履修に関する規程に従って厳格かつ適正に単位授与を実施している。成績発表後は成績に関する問い合わせ期間を設け、学生からの問い合わせには授業担当教員が回答をしている。</p>	

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)
成績評価は100点満点で行い、下記の基準により判定し、合格の場合にのみ単位を認定している。

「秀」または「S」	90～100点	合格
「優」または「A」	80～89点	
「良」または「B」	70～79点	
「可」または「C」	60～69点	

「不可」または「F」 60点未満 不合格

また、学業成績を計る基準として、GPA (グレート・ポイント・アベレージ) 制度を採用している。

GPAは下記のとおり、学期ごとに各登録科目の成績評価を「4」、「3」、「2」、「1」、「0」と科目GPに換算し、それに各授業科目単位数を乗じ、その総和を登録科目総単位数で除して算出する。

成績評価 (100点満点)	科目GP (グレート・ポイント)
90～100点	4
80～89点	3
70～79点	2
60～69点	1
60点未満及び放棄	0

$$GPA = \frac{(\text{科目の単位数} \times \text{科目GP}) \text{ 履修登録した総和}}{\text{登録科目総単位数}}$$

※小数点第3位以下を四捨五入とする。

累積GPAは下記のとおり、入学時から得た科目の取得ポイントを通算し、それを通算の登録科目総単位数で除して算出する。

$$\text{累積GPA} = \frac{(\text{入学時からの科目の取得ポイント}) \text{ の通算}}{\text{通算の登録科目総単位数}}$$

※小数点第3位以下を四捨五入とする。

GPA及び累積GPAの対象となる科目は、卒業に必要な科目のみとし、学生及び保証人にそれぞれ配布 (送付) される成績表に明示される。

成績不振者については、各学科長が指導を行い、連続する2学期において、各学期のGPAが共に1.00に満たなかった場合は、学部長が保護者同席の上、嚴重注意を行う。また、連続する4学期において、各学期のGPAがともに0.50に満たなかった場合は、学部長嚴重注意において退学勧告を行う。

客観的な指標の
算出方法の公表方法

本学ホームページ
<https://www.hamagaku.ac.jp/hgu/common/pdf/gpa.pdf>
及び学生便覧にて公表

<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p>	
<p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要) ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与方針）に以下の通り定めている。 現代コミュニケーション学部は、以下に掲げる知識や能力を身につけ、所定の単位を修得した学生に対して、卒業を認定し、学士（現代コミュニケーション）の学位を授与する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高潔な倫理観に立って、他を思いやることができる豊かな人間性を身につける。 2. 地域やグローバル社会に対応できる幅広い教養と専門的知識を活用して、課題解決できる力を身につける。 3. 「実践練磨」の場における共生協調能力を身につける。 <p>また、卒業の要件について、学則第 33 条に、「本学を卒業するためには、学生は 4 年以上在学し、別表に定めるところにより、124 単位以上を修得しなければならない。」と定められており、卒業について、学則第 34 条に、「本学に 4 年以上在学し、本学則に定める授業科目及び単位数を修得した者については、教授会の意見を聴いて、学長が卒業を認定する。」「2 学長は、卒業を認定した者に対して、卒業証書を授与する。」と定められている。</p>	
<p>卒業の認定に関する 方針の公表方法</p>	<p>本学ホームページ学部紹介にて公表 https://www.hamagaku.ac.jp/hgu/introduction/school/及び、学生便覧にて公表</p>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	浜松学院大学
設置者名	学校法人興誠学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://hamagaku.ac.jp/kosei/disclosure/
収支計算書又は損益計算書	〃
財産目録	〃
事業報告書	〃
監事による監査報告(書)	〃

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称: 対象年度:)
公表方法:
中長期計画(名称: 興誠未来創造計画 対象年度: 2019 - 2023年度)
公表方法: https://hamagaku.ac.jp/kosei/disclosure/

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: 本学ホームページ https://www.hamagaku.ac.jp/hgu/guide/evaluation/
--

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法:

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 現代コミュニケーション学部
教育研究上の目的（公表方法：本学ホームページ内 https://www.hamagaku.ac.jp/hgu/guide/kyouiku/#a01 にて公表）
(概要) 本学は、教育基本法及び学校教育法の規定するところに従い、高潔なる倫理観に立って他を思いやることのできる真に豊かな人間性を涵養するとともに、問題の本質を見極められる判断力、変化に対応できる創造力・実践力、さらには多様なコミュニケーション能力を身につけた、地域社会と人類全体に貢献できる人材を育成することを目的としています。
卒業の認定に関する方針（公表方法：本学ホームページ内 https://www.hamagaku.ac.jp/hgu/introduction/school/ にて公表）
(概要) 現代コミュニケーション学部は、以下に掲げる知識や能力を身につけ、所定の単位を修得した学生に対して、卒業を認定し、学士(現代コミュニケーション)の学位を授与します。 1. 高潔な倫理観に立って、他を思いやることのできる豊かな人間性を身につける。 2. 地域やグローバル社会に対応できる幅広い教養と専門的知識を活用して、課題解決できる力を身につける。 3. 「実践練磨」の場における共生協調能力を身につける。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：本学ホームページ内 https://www.hamagaku.ac.jp/hgu/introduction/school/ にて公表）
(概要) 現代コミュニケーション学部では、実学教育を行う中で、以下の目標が達成できるようアクティブ・ラーニングに基づく DiCoRes プログラムを中核とした教育課程を編成しています。 1. 人を思いやることのできる人間性を涵養し、責任を持って行動する力を修得する。 2. 幅広い教養と専門分野に関する知識・技術を学修し、それらを活用して諸課題を解決していく判断力・創造力・実践力を修得する。 3. 人々と活動する中で、多様なコミュニケーション能力を高め、リーダーシップを発揮する力を修得する。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：本学ホームページ内学部・学科紹介にて好評 https://www.hamagaku.ac.jp/hgu/introduction/school/ 、大学案内）
(概要) 【現代コミュニケーション学部】 現代コミュニケーション学部では、建学の精神と教育理念に共鳴する以下の者を受け入れます。 1. 大学での学修にふさわしい基礎学力を有し、地域や世界の現状、あるいは教育や保育に関心を持つ者 2. 地域や社会の課題解決、発展に寄与することに使命を感じる者 3. コミュニケーション能力の向上に意欲を持ち、創造性豊かで行動力のある者 【地域共創学科】 1. 大学での学修にふさわしい基礎学力を有し、地域社会への貢献に強い関心を持つ者 2. グローバル化し、変容する地域社会の諸課題の解決及び発展に寄与することに使命を感

ずる者 3. コミュニケーション能力の向上に意欲を持ち、地域社会の変革に取り組み、創造性豊かで行動力のある者 【子どもコミュニケーション学科】 大学での学修にふさわしい基礎学力を有し、教育・保育に強い関心を持つ者 教育・保育の抱える諸課題の解決及び発展に寄与することに使命を感じる者 コミュニケーション能力の向上に意欲を持ち、教育・保育に関して創造性豊かで行動力のある者

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：本学ホームページ https://hamagaku.ac.jp/hgu/guide/kyouiku/

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	1人	—					1人
現代コミュニケーション	—	14人	5人	8人	2人	人	29人
	—	人	人	人	人	人	人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
1人		42人					1人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法：本学ホームページ https://www.hamagaku.ac.jp/hgu/introduction/educators/					
c. F D（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
現代コミュニケーション	160人	110人	68.8%	640人	476人	74.4%	若干名人	2人
	人	人	%	人	人	%	人	人
合計	160人	110人	68.8%	640人	476人	74.4%	若干名人	2人
(備考)								

b. 卒業者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
現代コミュニケーション	93人 (100%)	0人 (0%)	92人 (98.9%)	1人 (1.01%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	93人 (100%)	0人 (%)	92人 (98.9%)	1人 (1.01%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項) 幼稚園、こども園、保育所等				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤ 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要)
1月に各授業担当教員にシラバス作成を依頼し、2月末までを作成期限としている。シラバス作成の手段はweb入力とし、各担当教員が作成期限まで24時間編集できる状態である。シラバス作成時の注意点に関しては、依頼時に必須項目、成績評価方法、必要な準備学習の具体的内容及びそれに必要な時間等の説明を行っている。3月に入力完了されたシラバスを教務担当職員がチェックを行い、修正期間を経て4月に当該年度のシラバスを公表する。

⑥ 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)
シラバス記載の成績評価方法、成績評価基準及び浜松学院大学履修に関する規程に従って厳格かつ適正に単位授与を実施している。成績発表後は成績に関する問い合わせ期間を設け、学生からの問い合わせには授業担当教員が回答をしている。
(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) 成績評価は100点満点で行い、下記の基準により判定し、合格の場合にのみ単位を認

定している。

「秀」または「S」	90～100点	合格
「優」または「A」	80～89点	
「良」または「B」	70～79点	
「可」または「C」	60～69点	
<hr/>		
「不可」または「F」	60点未満	不合格

また、学業成績を計る基準として、GPA（グレート・ポイント・アベレージ）制度を採用している。

GPAは下記のとおり、学期ごとに各登録科目の成績評価を「4」、「3」、「2」、「1」、「0」と科目GPに換算し、それに各授業科目単位数を乗じ、その総和を登録科目総単位数で除して算出する。

成績評価（100点満点）	科目GP（グレート・ポイント）
90～100点	4
80～89点	3
70～79点	2
60～69点	1
60点未満及び放棄	0

$$GPA = \frac{(\text{科目の単位数} \times \text{科目GP}) \text{ 履修登録した総和}}{\text{登録科目総単位数}}$$

※小数点第3位以下を四捨五入とする。

累積GPAは下記のとおり、入学時から得た科目の取得ポイントを通算し、それを通算の登録科目総単位数で除して算出する。

$$\text{累積GPA} = \frac{(\text{入学時からの科目の取得ポイント}) \text{ の通算}}{\text{通算の登録科目総単位数}}$$

※小数点第3位以下を四捨五入とする。

GPA及び累積GPAの対象となる科目は、卒業に必要な科目のみとし、学生及び保証人にそれぞれ配布（送付）される成績表に明示される。

成績不振者については、各学科長が指導を行い、連続する2学期において、各学期のGPAが共に1.00に満たなかった場合は、学部長が保護者同席の上、嚴重注意を行う。また、連続する4学期において、各学期のGPAがともに0.50に満たなかった場合は、学部長嚴重注意において退学勧告を行う。

（卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要）
ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与方針）に以下の通り定めている。

現代コミュニケーション学部は、以下に掲げる知識や能力を身につけ、所定の単位を修得した学生に対して、卒業を認定し、学士（現代コミュニケーション）の学位を授与します。

1. 高潔な倫理観に立って、他を思いやることができる豊かな人間性を身につける。
2. 地域やグローバル社会に対応できる幅広い教養と専門的知識を活用して、課題解決できる力を身につける。
3. 「実践練磨」の場における共生協調能力を身につける。

また、卒業の要件について、学則第 33 条に、「本学を卒業するためには、学生は 4 年以上在学し、別表に定めるところにより、124 単位以上を修得しなければならない。」と定められており、卒業について、学則第 34 条に、「本学に 4 年以上在学し、本学則に定める授業科目及び単位数を修得した者については、教授会の意見を聴いて、学長が卒業を認定する。」「2 学長は、卒業を認定した者に対して、卒業証書を授与する。」と定められている。

学部名	学科名	卒業に必要となる 単位数	G P A 制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
現代コミュニケーション学部	子どもコミュニケーション学科	124 単位	㊦・無	1 セメスター当たり 24 単位
	地域共創学科	124 単位	㊦・無	1 セメスター当たり 24 単位
G P A の活用状況 (任意記載事項)		公表方法：学生便覧にて公表 入学時、学生全員に 1 部ずつ配布		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

<p>公表方法： 本学ホームページ https://www.hamagaku.ac.jp/hgu/campus/map/ 学生便覧（新生オリエンテーションで配布） 大学案内（学校説明会、オープンキャンパス等で配布）</p>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
現代コミュニケーション	地域共創	660,000 円	280,000 円	344,000 円	施設設備費等
	子どもコミュニケーション	660,000 円	280,000 円	344,000 円	施設設備費等

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

<p>a. 学生の修学に係る支援に関する取組 (概要) 入学・3 年次進級時において成績優秀者、経済的困窮者及び外国人留学生に授業料を全額または半額給付する給費生制度を設けている。また、本学独自の奨学金制度及び通学費・住居費支援制度を設け修学を経済面から支援している。学習面では、1 年次よりゼミ担当教員がアドバイザーとなり履修・学習指導を行っている。障害を有する学生に対しては、通常の授業時及び期末試験時に合理的配慮を講じている。</p>
--

b. 進路選択に係る支援に関する取組

(概要)

目まぐるしく変化する就職環境を学生達が勝ち抜き、内定が取得できるよう、以下のキャリア支援を行っている。

- ・ S P I 就職試験対策講座
- ・ 面接等実践対策講座
- ・ 初等・特別支援受験対策講座
- ・ マナー講座、小論文講座、園長や採用担当者による講話
- ・ キャリアカウンセラーによるカウンセリング
- ・ 人事・採用担当者から採用に関する情報収集をし、個々の学生への支援で提供
- ・ 様々な模擬試験、適性検査の実施
- ・ 「資格取得・公務員試験合格奨励金」(令和3年度新設)による奨励金給付
- ・ 企業研究、試験対策等のため、キャリア支援室に書籍・問題集等を設置し貸出
- ・ 教職員によるキャリア支援委員会を組織し、学生の就職に関する支援を実施
- ・ 教職者・保育者を目指す学生のため「教職センター」を設置し様々な支援を実施

c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

(概要)

全学生に対しての健康診断の実施、健康管理センター及び学生相談室(心理カウンセラーを週1回配置)を設置し、学生の心身の健康をサポートしている。また、ハラスメント防止対策委員会を設置し、ハラスメントが生じた場合の解決やハラスメントを未然に防ぐための教育を教職員に対して実施している。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：本学ホームページ内 <https://www.hamagaku.ac.jp/hgu/guide/kyouiku/>にて
公表

(別紙)

※この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校名	浜松学院大学
設置者名	学校法人興誠学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		61人	60人	65人
内 訳	第Ⅰ区分	36人	33人	
	第Ⅱ区分	17人	19人	
	第Ⅲ区分	-人	-人	
家計急変による支援対象者（年間）				-人
合計（年間）				67人
(備考)				

※本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	0人	人	人
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間が標準時間数の5割以下)	0人	人	人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	0人	人	人
「警告」の区分に連続して該当	0人	人	人
計	0人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	人	後半期	人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人

(備考)

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの に限り、認定専攻科を含む。）、 高等専門学校（認定専攻科を含 む。）及び専門学校（修業年限が 2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数 の6割以下 (単位制によらない専門学校に あっては、履修科目の単位時間 数が標準時間数の6割以下)	0人	人	人
GPA等が下位4分の1	-人	人	人
出席率が8割以下その他 学修意欲が低い状況	0人	人	人
計	-人	人	人

(備考)

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。